

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。 3 真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。
(2) 現状と課題	基本的な生活習慣、基礎学力、コミュニケーション能力等が身につけていない生徒、小中学校において不登校を経験した生徒、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒のため、生徒一人ひとりにとって学校が心地よく楽しい居場所となる環境作りを目指す。
(3) 重点目標	1 多様化する生徒一人ひとりの能力・適性に応じた指導と学習習慣の定着に努める。(学習指導の充実)
	2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。(生徒指導の充実)
	3 働くことの大切さや進路選択について、生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む計画的・組織的・継続的な進路指導の推進に努める。(進路指導の充実)
	4 工業教育を通して、生徒のものづくりへの意欲向上とともに、望ましい職業観・勤労観を醸成する指導に努める。(ものづくり教育の充実)
(4) 結果の公表	学校評価結果報告書及び保護者対象に実施した学校評価アンケートの結果を、学校のホームページに掲載して発表する。

学校整理番号	57
学校名	青森県立弘前工業高等学校
定時制の課程	校舎
自己評価実施日	令和5年1月16日(月)
学校関係者評価実施日	令和5年1月31日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名 (同窓会役員、保護者、地域住民、大学等の教育関係者)
学校関係者10名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任等)

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実	①様々な生徒に対応するために、基礎的・基本的内容を中心に教材を精選し、各生徒に配慮した指導をする。 ②各教科において興味・関心を引き出す工夫をして、「分かる・できる授業」を目指す。 ③閉課程に向けて、図書及びその他書類の整理を行う。	①生徒一人ひとりの学習能力や特性に応じて、各教科とも基本的な教材を精選していた。 ②「分かる・できる授業」を実施するために、ICTの活用や一人ひとりの生徒に寄り添ったきめ細かな指導を行った。 ③閉課程に向けて、分掌ごとに不必要な書類を廃棄または整備ができた。	B	全日制の課題研究発表会において、「先生はヒントはくれるが、答えはくれない」という生徒発表の言葉から、これからは生徒が自主的に取り組み解決できる力を育ててもらいたい。	①生徒の特徴を把握し、生徒が興味・関心が高められる授業を各教科においてより一層の工夫し、「分かる・できる授業」を展開する。 ②教員の校内研修を定期的に行い、教員の資質向上を図る。 ③閉課程に向けて、式典の具体的なあり方、記念誌の作成、書類等の整備を計画的に行う。
2	生徒指導の充実	①基本的生活習慣及び規範意識を涵養する。 ②全教員による生徒に対する共通理解とチームで継続的な指導をする体制を充実させる。 ③少ない生徒数でも達成感のある充実した生徒会行事を実施するために、工夫を徹底する。	①ルールや時間を守ること、健康的な生活を過ごすことなど、生活習慣や規範意識の涵養に努めた。 ②毎日、朝会及び勤務終了間際に教員間で情報交換を行い、常に生徒の状況把握に努め共通理解ができた。 ③生徒会行事の内容の工夫により、運動会や学校祭をはじめ、少ない生徒数でありながらも教員と一緒に楽しく充実して取り組めた。	A	様々な問題を抱える生徒に対して、スクールアドバイザーを活用するなどして、引き続き生徒の内面的なケアを中心に登校できる環境づくりに努めて欲しい。	①全教員で基本的生活習慣や規範意識の涵養を継続して行っていく必要がある。 ②スクールアドバイザーのアドバイスをもらうなど、生徒にとって心地よい学校を全教員で目指す。 ③各生徒会行事の内容をさらに工夫して、生徒の心に残るような行事を考案する。
3	進路指導の充実	①授業やホームルーム活動を通して、社会人・職業人として自立できる能力・態度を育成する。 ②進路セミナーを充実させ、生徒の進路に対する意識の向上を図る。 ③個々の生徒の特性を活かし、かつ計画的・組織的な進路指導に努める。	①進路指導主事や担任は勿論のこと、工業科の教員が授業において進路と結びつけた授業の精選や説明を行っていた。 ②県の事業を活用して外部講師による進路セミナーを充実させ、刺激と緊張感がある進路指導ができた。 ③全教員で進路指導を分担し、一人ひとりの生徒を責任をもって指導できた。	B	卒業生の就職先と連携をとり、卒業生に講演をして実体験を話してもらう講演を企画するなど、更なる進路指導の充実を図ってもらいたい。	①生徒の希望進路実現のために、生徒が見学したい企業と交渉し、その実現にこぎつける。 ②ホームルーム活動や授業において、社会人・職業人としての礼儀やマナーを涵養する。 ③進路セミナーは、前年度同様、外部講師の招き、学校外からの刺激を導入する。
4	ものづくり教育の充実	①生徒と教員が話し合い、生徒が意欲的に取り組める課題内容を設定して、課題研究を充実させる。 ②怪我や事故がないよう、ものづくりにおいて安全教育を徹底する。 ③外部人材を活用するなど、工業技術教育の取り組みを強化する。	①生徒は担当教員の力を借りながら、生徒本人が望むものづくりを行い、その研究発表も立派であった。 ②年間を通して、大きな怪我や事故はなく、安全な授業を展開することができた。 ③今年度もコロナの影響で、外部人材の活用は厳しい状況であったため、技術教育の強化には至らなかった。	B	ものづくり産業への人材輩出が工業高校の使命であるため、地元の企業や大学などと連携を強化して、よりよい人材の輩出に引き続き努めてもらいたい。	①課題研究は、前年度同様、作業に取り組みやすいように、生徒の関心が高い作品作りをメインにする。 ②外部人材を活用し、生徒・教員ともに技術の向上を目指し、また閉課程の記念作品の製作とタイアップさせる。

(11) 総括	1 各教科において「分かる・できる授業」を目指して、ICTをさらに活用するなど教材や授業形態を見直し、授業の充実を図ることを追求する。 2 生徒の基本的生活習慣及び規範意識を涵養するため、全職員での指導体制を確立する。また、生徒の心情を踏まえた生徒を第一に考えた生徒指導を目指す。 3 来年度は生徒が1人のため、生徒会の行事などあらゆる行事で工夫を凝らし、生徒にとって楽しく取り組みやすい行事の企画を目指す。 4 進路指導においては、生徒の目指す先を早めに見つけ出すために、企業見学会や進路セミナーの充実を目指す。また、全職員での進路指導を継続する。 5 工業高校として、教員・生徒ともに「ものづくり」への向上心を忘れず、また地元や関連企業と連携して生徒の進路選択に繋げたい。 6 今年度、年次で企画した「弘前魅力探究プロジェクトH隊」は、生徒にとって弘前公園を中心に四季折々の景色の良さと地元の観光資源を肌で感じられた素晴らしい企画であった。 7 閉課程を踏まえ、式典のあり方や記念誌の作成など早期に具現化し、計画的に閉課程の準備を進める。
---------	---